

平成 22 年度 福井県立大学大学院
経済・経営学研究科博士前期課程
入学者選抜試験問題(第 1 次)
専門科目
経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 から 1 問 を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論) 以下の (1) ~ (3) から 2 つを選んで答えよ。

- (1) バブルとバブル崩壊が一国経済にはどのような影響を与えるかについて、理論的に論じよ。
- (2) 限界貯蓄性向がゼロに近い時には、減税政策は大きな政策的な効果が見込めないという主張がある。この主張の根拠を理論的に明らかにせよ。
- (3) アメリカでは他国（日本やヨーロッパ諸国など）と比べて、一般労働者と経営者の報酬の格差がきわめて大きい。その理由を理論的に説明せよ。

問 2 (経営理論) 「いい会社」の評価は、何をもってすればよいのだろうか。2008 年以來の世界的大不況の下、それまで着実な実績をあげ、多くの人々が優良企業にあげていた大会社も巨額の赤字計上という事態で喘いでいる。このような中では、利益率や安定的な利益の計上だけに頼る企業評価の物差しは揺らいでくる。

企業評価の物差しは、他の経営指標と同様に、時代と社会によって変わってくる面がある。したがって、これは必ずしも一律的で永続的なものがあるとはいえない。とはいえ、市場的な役割が大きくなればなるほど、何らかの点で根拠に基づいた企業評価がもとめられるのもたしかである。そこで、ここでは企業を取りまく利害関係者の立場に立って、もっとも納得的な優良会社の条件を検討し、それを通して自分なりに「いい会社」を選別する基準について論じてみよ。なお、ここでの利害関係者の視点とは、たとえば経営者の視点、従業員の視点、顧客の視点、取引先の視点、金融機関の視点、投資家の視点、就職活動中の学生の視点などが考えられる。(回答にあたっては、これらの視点にすべてふれなければならないわけではない。自分が適切と思う一部の利害関係者の視点にふれるだけでもよい)。